

News Letter

No. 03

2022年5月発行



WEBサイトはこちら▶



第3号編集
川口 知佐子
Chisako Kawaguchi
教育実践開発コース2年

広島大学大学院 人間社会科学研究科 教職開発専攻(教職大学院) 広報担当:寺内大輔
東広島市鏡山1-1-1 TEL:082-424-7146 e-mail:terauchi@hiroshima-u.ac.jp
https://kyoshoku.hiroshima-u.ac.jp/

特集 interview!! 新入生インタビュー 新しく大学院生に仲間入りしました!

- | | | | | |
|--|--|--|---|---|
| 教育実践開発コース 1年 (ストレート院生) 山崎 裕太 | 教育実践開発コース 1年 (ストレート院生) 堰楽 由理 | 教育実践開発コース 1年 (現職院生) 平田 剣士郎 | 学校マネジメントコース 1年 (現職院生) 中原 宏美 | 教育実践開発コース 2年 インタビュー 木村 海登 |
|--|--|--|---|---|



インタビューの一場面

木村●入学して一週間経ちましたが、心境はいかがですか
平田●教えたり指導したりという立場から、逆の教えられる立場になって、新鮮な気持ちで学び直せる所が良いなと思いつつながら生活しています。
堰楽●授業で、みなさん話し方が上手だなって思いました。自分の中で考えがまとまるように、私も頑張っていきたいと思っている状況です。
山崎●一言で言えば本当に楽しいです。大学生の時は、必修でやらされた感じでしたが、今は授業の内容は教育関係であるので新鮮です。また、教職大学院が大学の中で一番忙しさを親から少し聞いているし、自分のように数学の中高の勉強プラス英語の授業をとるケースが少ないので、忙しくなるだろうという不安もありませんが楽しんでいます。
中原●ストレート生は、すごいなと思いました。知識も人への伝え方もしっかりしているし、学びたいことがあって感心しました。そういう若い人の姿勢

からも学んだり、刺激を受けたりしたいです。だからこそ、優れた能力を持っているストレート院生が力を発揮できるように、もっとより良い学校現場を作っていきたいと思つようになりまし。そのために、マネジメントコースで理論を勉強して、実践することを繰り返しながら学んでいきたいと思つています。
木村●どうやってここを知ったんですか
堰楽●きっかけは、学部生の時、ゼミの教授に勧められたからです。先生に「ハートはあつていいから言葉は冷静であるように」とずっと言われていました。知識不足や実習での経験の無さから、思いはあるけれど実行出来ないことがありました。「学んでやってみてダメだったら、また学んでやってみて」という環境が君には必要だ」と先生に言われ、その環境がある、教職大学院がよいと思つ、ここを志望しました。
山崎●高校生の時に、父に高校教員なら理学部数学科と勧められました。でも、数学教育については全然勉強できなかったため、教育の勉強をするにはどうしたらいいのか悩んで、その時に自分で調べて、元々志望していた広島大学の教職大学院にきました。
木村●大学院で、何をしたいですか
平田●どのように勉強していけば子供達が伸びるのかということと、そこを突き詰めて、教科関係なく学び方について検討することをテーマに研究していきたいです。
堰楽●私は、広島大学の中学校、高校の美術の教師を育成するコースにいましたが、子供が一人で

成長する瞬間に立ち会える機会が多い小学校を希望しました。小学校教師になる勉強とこれまでの研究を生かして、図画工作の研究を行いたいと思つています。図画工作は自分の考えや思いを表現でき、それをみんなから認めてもらえるとても素敵な教科なので、認め合いのできるクラス作りに図画工作の授業が使えるのではないかと思つています。
山崎●僕は、数学の免許を持っており、将来的にも高校数学教員になろうと思つていますが英語も大好きです。実習に行った際に、英語が嫌だという生徒が8割ぐらいいました。これからの時代、英語は重要なキーワードになるから、英語という言語に対して考え方を変えなきゃいけないと思つました。そこで、研究内容としてはグローバルマインドを育成できるような数学の授業開発を最終的には考えたいと思つています。
中原●これまでに不登校の生徒、教室に入れない生徒への指導や協同的な学びを思つてきたんですけど、それは私が頑張るだけではダメなんだと気づきました。組織で行う必要性、協力する相手などを考えていかなきゃいけないと思つています。学校のマネジメントについて自分の理論を作つてそれを現場で実践してみたいです。
木村●七期生と色々お喋りしたいというのがあります。僕は雑談でもいいので色々な人とお話しして、吸収できたらいいなあって思つています。一年間、よろしくお願ひします。楽しい院生生活にしましょつ。

祝 令和4年度 入学式

入学おめでとうございます
2022年4月3日



サタケメモリアルホールで行われました。

4月3日、広島大学大学院の入学式が行われました。

また、教職大学院では、4月5日、6日の2日間、オリエンテーションを行いました。

2年生はこの日のために、年度末に一年間のふり返りの会を持ち、よりよい院生生活を送るための方法を考えました。それを新入生に伝えたり教えたりすることを通して、交流を深めることができる貴重な機会となっています。オリエンテーションによって、大学院生活の見通しをもつことができ、スムーズに授業と研究を始めることができます。

- 式次第
- 開式の辞
 - 国歌演奏
 - 広島大学大学院 入学許可宣言
 - 学長式辞
 - 学生表彰
 - 広島大学歌演奏
 - 閉式の辞

オリエンテーション

- | | |
|--|---|
| 1日目 <ul style="list-style-type: none"> ●自己紹介(教員・新入生) ●教職大学院の説明 ●大学院共通科目について ●人権尊重とハラスメント防止について ●履修ガイダンス ●研究の進め方 ●院生室案内 | 2日目 <ul style="list-style-type: none"> ●新入生と2年生顔合わせ ●学生生活・時間割について ●図書室・院生室等の使い方 ●履修登録の方法及び大学構内案内 |
|--|---|

1 学校マネジメントコース

米谷 剛先生

よねたに たかし



大学院人間社会科学研究科 准教授。
学校経営、教師教育、教員養成など、実務家の立場から教育に関するさまざまなテーマについて指導・研究。
趣味は旅行と読書。
旅行は美術館や博物館を巡る旅行や自然の珍しい景色が見られるところに行くことが好きです。今、行きたいのは、福井の恐竜博物館です。読書は、自分が読んだことのない種類も含めてたくさん読んでいます。



学校経営について熱く講義

大学の先生になられた理由を教えてください。

大学卒業後、中学校の理科の教員として働いていました。その後、長い間、教育委員会で勤務し、その後、教頭を経て校長として7年間働き、2年前に教職大学院に実務家教員として着任しました。

実務家教員として研究をされていることについてお聞きしたいです。

一昨年までは、学び続ける教員の要件について、去年からはミドルリーダーの育成についての研究をしています。

教職大学院の良さを教えてください。

学校そのもののことを良く分かって、理論あるいは実践の研究を進められることです。学校から全く離れた世界でもないし、学校そのものでもないし、それが上手く調和するような、そういった研究を進められる場、ですかね。それから研究者教員の先生方も学校の様子を分かってらっしゃる、学校を近くで感じられるというのが良さですね。

教職大学院生の良さを教えてください。

二つあります。一つは頭の回転が速いこと、反応が速いということですかね。もう一つは、いろんなことに前向きにチャレンジすることですかね。それが教職大学院生の良さであると思いますし、リーダーとして必要なコミュニケーション能力を持っているということでもあり、きっと、リーダーあるいはミドルリーダーとしての資質を向上させているということにつながっていると思います。

学生に向けてメッセージをお願いします。

まずは現職院生の方は学校や地域にとって有益になる研究をして欲しいですね。ストレート院生の方は広く勉強した上で、今までになかった教育の在り方の提案、理論と実践の往還の具現化、それが教職大学院で学んだということになると思います。

■インタビュー：岡 雅
(教育実践開発コース2年・高校理科における探究力の向上に関する指導法の研究)

マネジメントの先生とあまりお会いすることがなく、今回のインタビューでお話できてとても嬉しかったです。先生のお話を聞いてもっとレベルアップできるように頑張ります!

2 教育実践開発コース

山崎 茜先生

やまさき あかね



大学院人間社会科学研究科 講師。
子どもの心理・社会的成長・発達をどのように教育で支えていけばいいのかについて研究。
おいしいものが大好きです。どこかに行くときは事前にしっかりお店を調べてどこに行くかを決めます。直感でお店を選ぶのも楽しいですね。家では、その日の気分にあうお酒を選んだり料理を作ったりして楽しんでいます。



ゼミでの一コマ

大学の教員になられた理由を教えてください。

大きく2つあります。1つ目は、良い先生を増やしたいということです。元々、母が小学校の教員をしていました。私から見て、母は良い教員で、子供達一人ひとりにしっかり関わっているのが分かりました。母は私にも教師になってほしいと言っていましたし、私自身も良い先生が増えれば、良い世の中になるという思いを持っていました。しかし、教師として母のように働く自信はなかったため、自分が教師になるより良い教員を育てる方が、より広い範囲に影響を与えることができると考えました。これが、教員を育てる仕事をしようと思った理由です。2つ目は、「枠にはまる」ことが苦手なので、自分の興味や関心を中心に研究し、良い教員の育成に貢献するのはとてもやりがいがあり、自分に向いていると考えました。

ご自身の授業について教えてください。

私の授業では、理論をもって実践を見ること、実践を理論的に語ることを大切にしています。そのために、実際の教育相談の事例をできるだけ多く紹介したり、自分で考えて答えを出すアウトプットの時間を多く設けたりしてい

ます。ロールプレイはあくまで真実事ではありませんが、やってみて初めて分かる子供の発言や保護者の気持ちがあります。現場での教育相談ではどうしても教師目線から入っていくので、授業でそうでない目線を体験してもらいたいと思っています。今後は、現職院生も今まで行ってきたことの確認で終わるのではなく、何か新しい視点を学べるような授業にしていくことが目標です。

学生に向けてメッセージをお願いします。

教師として一番大事なのは、視野が広いことです。だからこそ、学生のうちに、教育関係のことに限らず色々な世界を見て、糧にしてほしいと思います。アルバイトも、遊ぶことも大事です。私自身も学生時代に様々なアルバイトを経験しました。教育系のアルバイトをしている学生が多いですが、レストランやホテル、家電量販店から学会への参加・お手伝いまで、学生時代に様々な経験をして、色々な人や世界に出会ったことは、今も財産になっています。

■インタビュー：上野 聡子
(教育実践開発コース2年・専門は高等学校英語科、山崎茜ゼミで研究中)

茜先生には日頃から指導教員としてお世話になっていますが、学生時代にされていたアルバイトのお話など今回初めて聞くこともあって、楽しい時間でした。私も在学中に様々なことを経験したいと思っています。

3 教育実践開発コース

松浦 武人先生

まつうら たけと



大学院人間社会科学研究科 教授。
社会科学、教育学、教科教育学、算数教育、確率概念。
趣味は、読書と天体観測です。本屋でいろいろな本に出会うこと、自分の天体望遠鏡で星を観ることが好きです。退職後はスペインのサグラダファミリアなど世界遺産巡りがしたいです。



実践と研究を織り交ぜての授業

大学の教員になった理由を教えてください。

主な理由は、附属学校教員生活・大学院生活を通して研究の面白さ・奥深さを感じたことと、附属学校での教育実習指導を通して教員養成に興味を持ったことです。特に「教員養成」「教育実習」について関心があり、『あらゆる教育論は教師論に帰結する』という言葉もあるように、子どもたちを教育することも大切ですが、子どもの教育に携わる立場にある教師の力をつけることもとても重要だと考えています。例えば、教員を目指す学生が40人いるとします。将来その学生一人ひとりがクラスを持つと、大学での学びが約1600人の子どもたちに影響を与えることになります。私にとって、大学は教員を養成するための「現場」なのです。

ご自身の研究について教えてください。

初等教育段階において確率概念をいかに形成するかについて研究をしています。具体的には、児童生徒の確率判断の実態や確率判断におけるヒュ

ーリスティックス(主観的・直観的な誤認知)の実態を調べたり、確率の共通概念経路の検定(確率概念がどのように形成されるか)や確率概念形成を意図した学習材開発と実践的検討をしたりしています。確率・統計には「遊び」の要素が含まれており、「何が起るかわからない」、「必ずそうなるとは言えない」という不確実性があることが面白いと思っています。

学生に向けてメッセージをお願いします。

実践的な研究を繰り返し行う中で、子どもたちの変容を客観的・科学的に捉え、学習指導の改善につなげる力=省察する力・態度(Reflectiveness)を育成することができるのが教職大学院の良さだと思っています。2つのコースを持ち、現職院生とストレート院生が在籍しているので、多様性の中で学び合える環境があります。その中で、「実るほどに頭を垂れる稲穂」のように謙虚に学び続けてほしいと思います。

■インタビュー：植田 寿美玲
(教育実践開発コース2年・小学校国語科教育を専攻)

自分の強みを現場で活かせるような教員になれるように残りの教職大学院生活を大切にしていこうと思います!

編集後記 / 第3号

担当 / 川口



広島大学教職大学院ニューズレター第3号をご覧いただき、ありがとうございます。今回は新入生のインタビューを掲載しました。32名の新入生を迎え、賑やかになった教職大学院です。毎号で掲載している、先生方へのインタビューでは、複数名で伺うことで、より多くのことを聞くことができ、さらに、より先生方の思いを聞くことができ、楽しいです。